

難題克服シリーズ② 1級実技（面接）試験 抵抗に合ったときの対処法を強化する講座

1級合格を目指す方が抵抗に合った場合でも対処できるようになる講座						
東京	2026年10月4日(日)	9:30~16:30	会場：全労連会館 御茶ノ水	受講（税込）	会員：23,000円	一般：25,000円
本講座は1級実技（面接）試験において、合格のための難関の一つとされる「事例相談者から受ける抵抗」をメインテーマにしたものです。1級実技試験の評価区分のうち、「問題把握力」には、事例相談者視点の問題と事例相談者は気づいていない面談技法上のクセや偏り（事例指導者視点の問題）の2つがあります。このうち、「事例相談者視点の問題」は、ロールプレイ中に、事例相談者が相談したいことの「要約」や「まとめ」として事例相談者に伝えることで加点されます。 これに対し、「事例指導者視点の問題」は、事例相談者が気付いていない面談技法上の「クセや偏り」（傾向）ですので、事例指導者が問題を見立て、それに気づいてもらうための働きかけをする必要があります。すなわち、「事例指導者視点の問題」を的確に把握するためには、「事例相談者に気づきを促す」働きかけを行わなければなりません。そして、気づきを得られないと、目標に合意を得られず、「抵抗」を受けることがあり、事例指導者（受検者）が混乱に陥ってしまうことがあります。 これを避けるためには、講座では、まず、「抵抗に合わないようにすること」の重要性を理解します。しかし、最近の試験では、「抵抗」の姿勢を示す事例相談者が多くなってきています。そこで、合格のために、抵抗されてしまった時の対処法として、「事例相談者が抵抗する時の心理的理解」、さらには「抵抗に合った場合の適切な対処法」の三段階に分けて学びます。 最初に、事例相談者に「抵抗されないような関係構築のやり方」を振り返ります。 次に、「抵抗したくなる事例相談者の心理やそうさせてしまう事例指導者の発話や態度」を理解します。 さらに、「抵抗に合った場合の適切な対処法」について、いくつかの事例を使って実践します。 午前中で、抵抗に合うメカニズムを学び、午後はそれを前提にロールプレイを行います。 1回のロープレに対し、必ず当会の講師からフィードバックを差し上げますので、10月中に苦手意識を払拭してください。						

受講することで、理解し身につく内容	
抵抗に合わないようにするために行うべきことを考えます。	こんな場合は抵抗されるという事例からセルフチェックをします。
抵抗された時の逐語や事例を使って、対応法を考えます。	抵抗されてしまった原因を分析し、そうならないための対処法となってしまった時の対処法の両方を実践します。